

第2回 ジュニアユースウェーブ選手権

平成29年12月29



第2回目となるジュニアだけのウェーブ種目の大会、ジュニアユースウェーブ選手権がウェーブの聖地・御前崎ロングビーチで23名の選手が集まり開催された。

当日は予報より早めに吹きだしたレギュラーウインドの西風に合わせ、まずはウェーブビギナーによるチャレンジクラスからのスタートとなった。

御前崎が初めてという子供たちも多かったが、沢山のサポートメンバーに支えられて果敢に波にチャレンジしていく姿に、観客も熱いものを感じたようだ。



小学校2年生・3年生が参加するチャレンジジュニアクラス、小学生高学年の小学生クラス、中学生が参加するチャレンジユースクラスでは、ビーチスタートや波越えに苦労するメンバーも多い中、引率のインストラクターやプロ選手、そしてU22クラス参加者の強力バックアップにより選手を助けるとともに波への不安を取り除いてくれた。



会場でのサポートにはスマイルプロジェクトのレスキューチームとWRMAのメンバーが2台の水上バイクで完璧な安全体制を確保。

若干7歳～8歳の子供たちが御前崎の海にチャレンジできるのは、こうしたレスキューチームとビーチからのサポート体制の賜物だろう。

チャレンジジュニアクラスでは決勝まで終始安定した走りを見せ、海面を大きく使ってジャッジにアピールした小西 陽人選手が優勝(写真左下)。

表彰式では本当に悔しそうな表情を見せた高橋 早太郎選手が2位となる(写真右下)。今や世界でも活躍する驚異の中学生 杉 匠真プロの弟 杉 僚真選手は今大会最年少の7歳。

1回戦で最後の波に乗り遅れたのが悔やまれるが、3位入賞となった。



チャレンジユースクラスで圧倒的なスコアで優勝したのは普段は琵琶湖で練習を重ねる吉田 朔大選手(写真左下)。

波に乗り自在にボードを操る技術はチャレンジクラスとは思えない卓越したものだだった。

2位には今年から本格的にウインドサーフィンに取り組みだした御前崎の小野 開登選手(写真右下)が入賞。

3位には突然吹き上がった風に翻弄されながらも、あきらめず何度もゲティングアウトにトライした姿が印象的だった佐伯 紗菜選手が入賞。



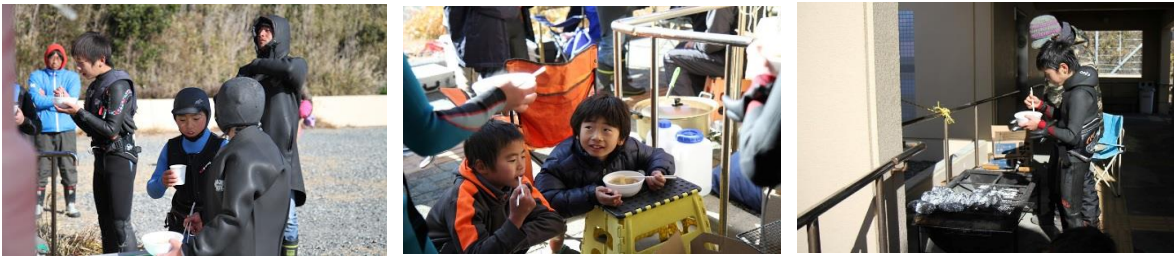
この大会で一つだけ心残りとなったのが小学生クラス。

1ラウンド目の2回戦開始と同時に強烈に吹き上がった風のため、ヒート続行を断念せざるを得なかった。この日は最後までコンディションが穏やかになることはなく、残りのヒートが続行されることはなかった。



海上やビーチだけではなく、陸上でも選手をサポートしてくれるのが御前崎ウインドサーフィンクラブPTAとスマイルプロジェクトのメンバー達。

お昼には温かい豚汁やおしるこ、焼き芋などのもてなしで、選手たちの冷えた体を芯から温めてくれた。



中学生クラスからは大人顔負けのヒートも出るほどグッとレベルが上がってくる。豪快なフォワードループと丁寧な波乗りでファイナルを制したのは生駒 篤樹選手(写真左下)。

兄弟でライバルの生駒 勇樹選手はわずかに及ばず2位(写真右下)。

写真でも分かる通り、ジャンプ・ウェイブ共に非常に見ごたえのあるファイナルは、中学生の戦いであることを忘れて見入ってしまうものだった。



高校生クラスを制したのは池照 貫吾選手(写真左下)。

波乗りジャンプ共にヒートが進むごとに調子を上げてくるタイプの選手で、フリースタイルだけではなく、ウェイブも急成長している注目選手だ。

2位の石原 一季選手も今シーズンにメキメキと上達してきていて、フォワードループにも果敢にチャレンジする果敢なJK(写真右下)。



U-22のファイナルはもはやプロクラスのヒートといっても過言でないレベル。
先のプロ戦 COLD BREEZEで2位、3位の杉 匠真選手と石井 孝良選手に加え、ベスト8の
生駒 勇樹選手、中学生クラスでは優勝を決めた生駒 篤樹選手によるファイナルを制した
のは、石井 孝良選手(写真左下)。
セミファイナルではゴイターをメイクした杉 匠真選手が惜しくも2位となる(写真右下)。
3位には中学生クラスのリベンジを果たした生駒 勇樹選手が入賞となった。
非常にハイレベルとなったU-22クラスからは今後も日本のコンペションをけん引する選手が
多く排出されるのは間違いない。



沢山のサポートメンバーに支えられて成り立ったジュニアユースウェーブ選手権。
今年で2回目となるが、もはやウェーブシーンにはなくてはならない大会だと思える。
ウェーブの技術向上も目的の一つではあるが、実行委員としては全国のジュニア達と同じ
海に挑み、達成したり悔しい思いをしたり、同じ時間を過ごしながらか交流を深めてくれること
が一番に願っている。
沢山のご協賛、スタッフの強力なサポートに心より感謝を述べたい。
来年もこの御前崎でお会いしましょう。

実行委員会委員長
石井 久孝

写真提供 ウェーブスプラッシュ様 / 杉 純太郎 様

